

DXを志向した2つのプログラムで 明日のイノベーション経営の担い手を育成

» イノベーション経営カレッジ(IMCJ)とは

今日、世界中でパラダイムシフトが起きています。この激しい変化のなかで企業が存続していくためには、パラダイムに適応した新たなビジネスモデル、新しいビジネスプロセスを模索していかなければなりません。今や変革に不可欠な存在となったデータとデジタル技術。これらを武器として活用し、新しい価値を創造することが「イノベーション経営」です。そして、イノベーション経営を実現するうえで、人の心の変革も、欠かすことのできない重要なファクターです。

イノベーション経営カレッジは、「企業と人の心を変革するイノベーション」を実践する人材を育成・支援する場です。「プログラム」「コミュニティ」「ラボ」という3つの活動を通して、「イノベーション経営の普及・推進」に取り組んでいます。

このうち、「プログラム」IMCJ2.0では、2009年より、次代のイノベーション経営を担うミドルマネジメント層向けのプログラムを実施、のべ294名の卒業生を輩出しています。いずれも企業の中核を担う人材として活躍されています。また、Challenge Campは、異業種で共通課題について議論し、「既存ビジネスとデジタル技術を融合し新たなビジネスを協創する場」として、2018年に新たにスタートいたしました。

新たな価値を生み出せる、
マネジメントの仕組みづくり

IMCJ2.0

これからの組織経営を担う
幹部候補向けプログラム

出島スタイルの協創の場

IMCJ Challenge Camp

デジタルプロジェクトのプロセスを、オリジナル
フレームワークで体感する、出島スタイルの協創プログラム

» IMCJ Challenge Camp 7つのポイント

01. 出島スタイルの協創の場

JUASのプラットフォームを最大限に活かし、業界を代表する企業の組み合わせによる協創の場を提供、企業単独で取り組む事業創造では思いつかないアイデアから、顧客中心のビジネスをデザインします。

02. 異業種の化学反応

異業種メンバーの知恵と多彩な経験をぶつけ合って化学反応を起こし、新しい着想による事業構想を得ます。

03. 課題を企業共通課題 or 社会課題にリフレーミング

持ち寄った課題を、企業共通課題もしくは社会課題にリフレーミングし直した上で、異業種チームを結成して問題に取り組みます。

04. 顧客起点でのストーリー創り

最新テクノロジーに寄りかちなDXをカスタマー・エクスペリエンス起点で、アイデア出し、ストーリー創りを実施します。

05. デザイン志向をベースにしたオリジナルフレームワーク

3つのステージで、価値・アイデア(体験)・ビジネスモデル(実現手段)をデザイン。デジタルプロジェクトのプロセスをメソロジーと徹底したワークショップを実践するオリジナルフレームワークで、腹落ちするまで体感します。

06. 「わかる」だけでなく、「できる」「持ち帰れる」

5カ月のロングランサポートが生み出す「できた」実感、デジタルデザインメソッド・企画書・オリジナルムービーなどの成果物を持ち帰れます。

07. 価値検証コンセプトをムービーで表現

最終的には、デジタルプロジェクトに有効な価値検証コンセプトムービー(MVP)を作製。成果報告会でのプレゼンも実施します。

総合ナビゲーター：濱田文吾氏



IMCJ 2.0

18期 (2020年度)

参加者の感想

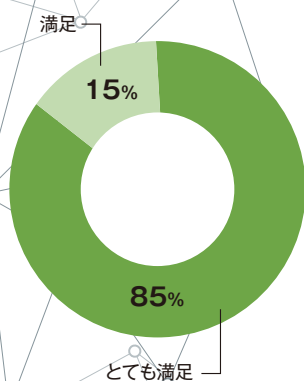
18期参加者からのコメント

- 知識の吸収の面と変革に向けた自らのモチベーションアップに有効
- 情熱に火をつけるのは容易ではないと思うが見事に火をつけられた
- 「その考え、発言の主語は自分か?」これはどのセッションにも根本にあることだった。
- 「自分でやる」これを忘れずに行動したい。
- 組織構造の話、アイデアを出す場合などのテクニック・トレーニング、課題発見・洞察など盛り沢山だった。
- ほとんどの講師の方が、経営トップとの関わりや、データについて触れられていた印象で、いずれも重要事項だということを再認識した。
- メディアからコンサル、実業をやられている会社の役員、取締役など、幅広い立場の方から、いろいろな情報をインプットいただけるのは、この場しかないと感じました。特に実業の役員・取締役の方々の話は失敗談も含めて実感が伴っているものが多くとても参考になりました。
- バラエティに富んだ講師の方々からの話がとても面白く、また刺激的であった。実際、かなり自分の意識が変わるきっかけになった。
- 素晴らしい講師陣より集中的に貴重なお話が聞けて、意識を変える大きなきっかけとなった。また、各社から参加された素晴らしい仲間と同じ時間を共有できたことは今後にもつながるように感じている。
- ワークショップを通じて異業種の方々や自由に意見交換することができ、同じ悩みや取組み点を共有する貴重な機会を得られた。また、日常と物理的に異なる環境に身を置くことで、現業を離れた位置から眺めることができた。

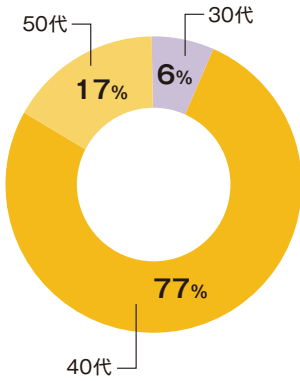
企業推薦者の期待

- 当社のリーダを担う人材であり、本研修を通して他業種との交流により視野を広げるとともに物事への考え方を深めてほしい。
- 当社の財務経理部門の責任者です。IMCJを受講し、顧客および当社のデジタル変革に対する事業部門の取り組みを理解し、経営幹部として会社をリードするための力にしてほしいと期待しています。また講師の先生方、参加企業のメンバーの方々との交流を通じ、将来につながる人脈づくりに役立ててもらいたいと思います。
- 次期、部門の牽引者として、活きた問題解決力を磨き、自部門の、ひいては自社の変革を主導する人材として期待している。

■ 全体評価 (1~18期)



■ 参加者の年齢層 (1~18期)



IMCJ Challenge Camp

実績と参加者の感想

90%以上のメンバーが下記を体験

- 他社メンバーからの刺激やそれによるマインドの変化があった
- 様々な業界の多様な視点が入ることによる発想の広がりがあった
- 視野の広さ・視座の高さ・視点の鋭さへの影響

いいね!
90%以上

参加者からのコメント

- ゴールからの逆算ではなく、色々なメソッドから価値やアイデアを積み上げて解決策を創出するやり方は、普段は行っていないのでよい体験となった。また色々な思考のトレーニングは日々の生活で意識することによって今までとは違う視点で既存のビジネスを見られるようになった。
- サービスを1から最後まで一連で、やったことがなかったため、良い経験となったと同時に、新サービスを生み出すことの難しさを知ることができた。
- 一旦具体を思考してから、抽象度を上げて再度既存のモノ・サービスをマッピングする作業は、具体→抽象→具体と直観的に解決策などを思考するのではなく、課題に対して有効な解決策を効率よく導き出すのに役立つと感じた。
- 自社で今回のようなワークショップの場合、本業にどう結びつけるかという思考になってしまう。様々な企業の方と一緒に活動できたことで、今までよりもフラットにユーザーのことを考えることができた。
- 日常の業務では体験できないカリキュラムで、人としての幅が広がったように思う。ここまで徹底した体験型プログラムを他には経験したことがなかった。

派遣企業責任者からのコメント

- 社外の方とアイデアを出し合って一つのものにまとめていくプロセスが、実業務にもとても生きると思う。自分の会社で、周りの同僚にもこの経験を伝えていって欲しい。
- 日常業務を離れて、かなり頭に汗をかいたことと思う。徹底的に考え抜く経験は、なかなかできず、貴重な財産になると思う。

